

イシガイ *Nodularia douglasiae* (Gray in Griffith et Pidgeon)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布域を持ち多産したイシガイ科貝類全体の生息が危機的状況である。本種の県内における生息場所は木村(1994)を含めて現在12地点しかない。生息地点での個体数も非常に少なく、絶滅の可能性が非常に高い種と評価された。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては中型で、通常、殻長7cm程度であるが、湖沼産の個体は大型になる傾向がある。殻長に比べて殻高が小さく、輪郭は細長い方形。殻長部分には弱いさざ波状の彫刻がある。主歯は前側縁と平行で細長く、後側歯も長い。



幸田町相見川, 1989年12月3日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

1960年代中頃までは木曾川水系の日光川、五条川、矢作川水系、豊川水系などで広く生息が確認されていたが(愛知県科学教育センター, 1967)、県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で木村(1994)では6カ所でのみ生息が確認されたが、個体数が少なかった2カ所では1998年から2001年の現地調査では再発見されていない。2005年木曾川本流の調査で生息地が追加されたが、個体数は非常に少ない(木村, 2006)。岡崎市内で過去に2ヶ所健全な個体群が確認されていたが、現在生息が確認できない(木村, 2014)。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道、本州、九州の河川下流域、湖沼に分布する。

【生息地の環境/生態的特性】

上述したように、河川の下流域や平野部の用水路などの流れが緩やかな砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。

【現在の生息状況/減少の要因】

上述の通り生息地の破壊が極めて深刻で絶滅が危惧される。

【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って、他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

【特記事項】

岐阜県(2010)では絶滅危惧Ⅱ類にランクされている。環境省ではランク外であるが、東海地方の個体群は危機的な状態であり、かつタナゴ類繁殖用の産卵床としての採集圧力も高く、絶滅危惧種として保護することが強く望まれる種である。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.  
岐阜県, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物 動物編 改訂版.  
([https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index\\_17185.html](https://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/shizenhogo/c11265/index_17185.html))  
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究叢報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.  
木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, (32): 22-25. 名古屋貝類談話会.  
木村昭一, 2014. イシガイ. in: レッドデータブックおかげさき 2014. p. 320. 岡崎市.

(木村昭一)